



André JAPY



ジャビー社製品に使用されたロゴマーク



ル・コック・ジャビー

【情報提供】ボークール市

『ボークール市の

ル・コック・ジャビー』

Vol.7

ボークール市役所の前に、街のシンボル「ル・コック・ジャビー」があります。高さ3.8メートル、重さ2トンの雄鶏のオブジェです。2009年、ボークール市に近接するドゥー県出身のアーティスト、パトリック・シヨファット氏とデニス・ルカセリ氏により制作されました。

この作品には、ボークールの歴史が秘められています。かつて、街が時計産業などで

栄えた時代、街にはたくさんのジャビー社の工場がありました。ル・コック・ジャビーは、その工場を解体した後の金属で作られており、工場の創業者たちの機械産業の目覚め、その思いを表現しているそうです。また、雄鶏（ル・コック）はフランスの象徴としてよく使われるモチーフの1つでもあります。欧州では、毎年9月第3週の週末に「ヨーロッパ文化遺産の日」が開催されます。普段は一般公開されていない歴史的建造物、大統領官邸（エリゼ宮）の公開、美術館の開放などにより、文化遺産に親しむことが目的とされ、フランスが発祥です。ル・コック・ジャビーは、2009年のヨーロッパ文化遺産の日で、ボークール市のジャビー博物館を訪れた来場者の前で初披露されました。オブジェの周りにはいつもきれいな花が植えられ、地元住民が大切にしている街のシンボルです。

◎問い合わせ 企画課
☎3710102

身近なフランス語を話してみましょう!



神埼 フランス



ホームページ